

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	坂本 稔	学校名	氷川町立竜北西部小学校
実施学年	3年	教 科	算数
単元名	間の数(啓林館)		

《学びを深めたいポイント》

「令和の日本型学校教育」として、個別最適な学びと協働的な学びの実現が今日の教育の課題である。中教審答申においては「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っていくことが必要であると言われている。そんな授業改善を目の前にいる子どもたちとどのように行っていくのか、またそのような授業の実現に当たってICTをどのように活用していくのかを具体的に考えていかねばならない。そのような授業の具体化の一つの取組として実践を行った。

今回の実践は算数科での実践である。算数科における問題解決型学習の中で、一人学びと学び合いの時間を確保し、問題を解決し、まとめていく流れを作る。ICT 活用においては、教師が指示した使い方に沿って活用をしていくのではなく、児童自らが選択をしながら活用を図る場づくりを大切にする。ICT を自分の考えを整理し、まとめるため、情報(友達の影響)を集めたり、交流したりするため、そして考えを伝えるために自ら ICT の使い方を選択していく、授業づくりである。

授業実践に当たっては、当然使用する ICT 機器やアプリの使い方を見習う程度使えるようになっていることが重要である。そして「いろいろな使い方をしてもよい」という場を実際に設定し、そして実際に ICT の使い方を自分で考えて使ったことに有用感を持てるようにしていくことが重要であると考えた。

《SKYMENU 活用のポイント》

今回は、スカイメニュークラスでの実践である。

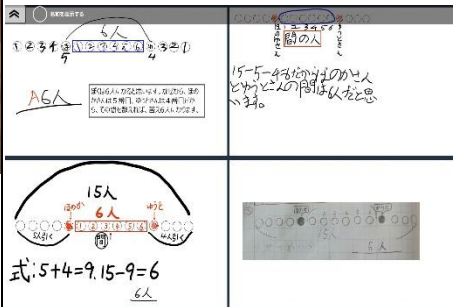
「発表ノート」の使用を中心に、「グループワーク」、「みんなの作品」、「撮影機能」などを選択・組み合わせながら使用する。また Windows の機能も一部組み合わせながら活用を図っていくようにする。今回の実践は 3 年生であり、活用の経験を増やしながら、自分たちで ICT を選んで使っていくことの良さを感じてほしい、そして学年が上がるにつれ、少しずつ主体的な活用を充実させてほしいと考えている。

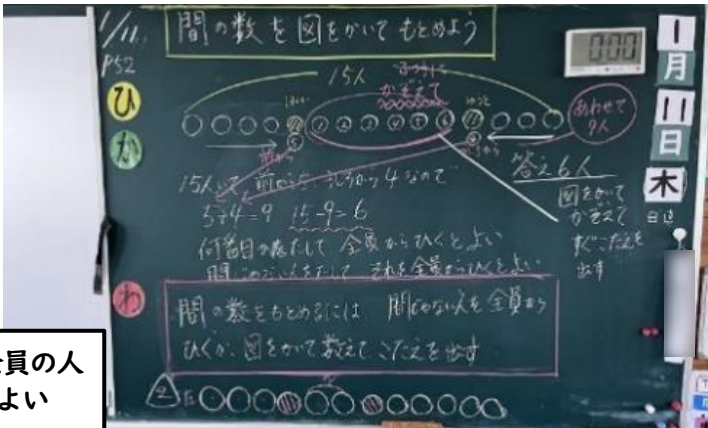
まず「一人学び」においては、アナログのノートとデジタルのノート(発表ノート)を選択しながら、自分の考えを整理し、まとめていくようにさせる。発表ノートを使用する場合は、資料置き場に教師から提供する補助的な図の枠などの資料を置いておき、児童が自分の問題解決の状況により利用できるようにしておく。

次に「学び合い」の場面では、自分の状況にあわせて「みんなの作品」や「グループワーク」機能を使用して情報(他者の考え)を確認したり、集めたり、比較したりできる場を設定する。あくまで各自が行いたい方法を優先させるので、教師からグループの指定などは行わない。その代わりに「グループナンバーカード」を用意して、自分たちで数名のグループワークが組めるようにする。またみんなの作品では、他の児童のノートを見るだけでなく、有益な考えや比較したい考えは、スクショ機能を使い自分のノートに取り入れることができるようにする。

最後に「全体で確認・まとめる」場面では、発表機能を使い、またマーキングなども活用させて、わかりやすさを意識した発表ができるようにする場を設定していく。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1 問題を知る・めあての確認 問題：子供会のピクニックで15人が1列に並んで歩いています。ほのかさんは前から5番目です。ゆうとさんは後ろから4番目です。この2人の間には何人いますか ○問題について話し合う ・ほのかさんの場所はここです。 ・木で隠れているから数えられない。 ・図をかいて、かんがえるといいです。 ・計算でもできると思う。 ○めあてを考える	○児童の発表時は、教師用タブレットからペン機能を使わせる。 	・ペン機能を普段から、発表時に積極的に使わせ、指し示しながら伝える経験をさせる。 ・「みんなの作品」を、考えを共有するためのツールとして使えるように授業開始前に公開しておく。
	めあて：間の数を図を書いて求めよう		
展開	2 一人で考える  【発表ノートに考えを書いていく児童】 ※自力解決した児童は、自分のノートをみんなの作品に公開する。	○「発表ノート」を使うか、自分のノートを使うかは自分で決める ○発表ノートを使う児童は、自分で図を描いたり、資料置き場の図を活用したりして、考えをまとめていく。 ○自分のノートを使った児童は、発表ノートに画像を貼り付け、考えの共有や発表に使えるようにする。 ※資料置き場にヒントなどを置き、児童が必要に応じて使えるようにする。今回は○を使った図を置いておく。	・ICTを使うか、どう使うかを児童が主体的に選んでいく経験を積み重ねるために行う。
	3 友だちと話し合う  【みんなの作品で友達の考えを確認する】  【自由にペアやグループで話し合う】 ※グループワークでノートを共有し、それを見ながら話し合いをする。	○「みんなの作品」をみんなの考えを共有する場とし、参考にした考えは、スクショして自分のノートに取り込む。また話をしたい相手をそこからを見つけるために使う。 ○話し合う時間の間も、自分の考えをじっくり整理したり、他の児童の考えを見たりしながら、一人学びを続ける児童もいる。  ※発表ノートで考えを比較し、自分の考えをさらに強化したり、更に広げたりする活動ができるように声掛けをする。	【自分のノートを撮影して貼り付ける】 ・一人学びが終わったら、自分のノートをみんなの作品に公開する。これにより他の人の考えを情報として取り入れることが自由にできるようにする。 ※グループワークをする時は、番号札をめぐっていき、その番号を使ってグループを自由に組む。  【ナンバーカードで自由にグループワーク】 

ま と め	4 考えを出し合い、まとめる。 ○自分の考えや友達のとくらべてわかったことを発表し合う。  【マーキングを使って発表】 ○私は図を書いて考えました。二人のいる場所を書いて、その間を数えると、6人になりました。 ○同じ意見でした。 ○私は、5番目と4番目という数を、全体の人数から引きました。 ○5番目までと4番目までは間の数には関係ないので、それを2つ引けばよいと思います。 ○私は最初に、$5+4$をして9,それを全体の15人から引きました。 まとめ：間の数を求めるには、間ではない人の全員の人数から引くか、図を書いて数えて答えを出すとい	※大型テレビを児童のノート映す機器として使用する。電子黒板と併用する。 ○全体で考えを出し合う場面では、発表許可をしておき、発表ノートの発表機能を積極的に使わせる。 ○互いの考えを共有しているので、発表の表現に困った時には、同じグループで話し合った児童が、発表を助ける様子も見られた。 【助けを借りながら発表を続ける】→ → この授業の板書電子黒板を半分使用 	・スカイメニューの発表機能は日常的に使わせている。指示棒などを使い、指し示しながら使ったり、スライドショーからマーキングを使って説明したり、わかりやすい発表の仕方を工夫させている。 
----------------------	--	--	---

《実践を振り返って》

これまでタブレットを使用した学習を行う場合、デジタルのシートなどを一斉に配布し、それを一斉に使って行うというものを日常的に行ってきたし、現在そのようなやり方を行うことも多い。その方法により、タブレット等のICT機器の使い方を児童が学び、教師自身もそうやって使い続けることで、新しい活用方法を探ることもできてきた。そのような土台に立ち、これからはタブレットなどを使うことを児童の選択に任せていく場面も多く設定していくことが必要である。

今回の実践では、主にスカイメニューの「発表ノート」「みんなの作品」「グループワーク」機能を用いて、上記のような授業スタイルの実践を行った。児童もそれぞれの機能の使い方慣れてきているので、それら機能を使った活動はできた。しかし友だちの考えと比較して、自分の考えをどう深めていくかという所での活用はまだ十分ではない。比較する考えを同じページに並べ、そこに共有して考えたことを書き込んだり、図と式の関連性をすすんで考えたりという学び方をもっと積極的に知らせ、実際に使わせていくことで、スカイメニューの機能を使いこなして、学びを深めていくこともできるようになっていくと思う。

自由度の多い使用法は、当然1時間の中で児童が様々な使い方をする可能性がある。よって、それらを見とり支援できる教師のスキルも必要であり、また児童の十分なスキルも必要な学習の仕方となる。児童がしっかりタブレットを使いこなし、そのよさを生かして使っていけるようになるまで、同じような場の設定、くり返しの学習も必要である。またその経験の中から児童のアイデアある使い方が出てくることも期待したい。このような取組を継続し、学校全体としても、学年をまたいで実践を深めていくことにより、より効果的なスカイメニューを含めたタブレットの活用方法を今後も探っていきたい。またこのような学習がより効果的にいきやすい、スカイメニューの機能強化も期待したい。